

## 「自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.29

### 秋半ばの自然を彩る花々 Flowers in the middle of autumn」

2020年10月22日

雨の多い秋を迎えている。それでも晴れの日には、綿雲が青空に広がり季節の変化を実感させてくれている。10月神無月に目に映った花々のアルバムにしました。

カンナが10月に咲くのはすっかり日本に馴染んだ証し？秋明菊は、その名の通り、穏やかで明るい印象を与える秋の花と言える。秋を個性的に彩るのがケイトウ。雄鶏の鶏冠や小動物のしっぽを想わせる姿はすぐに目に焼き付く。外来の花も秋に彩を添える。

諺「蓼食う虫も好き好き」に出てくるタデは、背丈が2m近くになる目立つ花だが、この花が好きだという人をまだ知らない。でもイヌタデ、ミズヒキと同じ仲間(Persicaria)と知ると興味を惹かれる。まだ好きとは言えないが…。

これまで見て来た花に動物の名(鶏・猫・狐・犬)が付いていて面白いと思った。それぞれ形に由来するようだが、冠名のイヌは植物学的に「否(いな)」という意味か、犬蓼のように葉に辛みがなく「役に立たない」という意味で付けられると言う。

仙川沿いで都会では珍しいソバの花とシオンを見つけ歓喜した。早朝の気温が15℃を下回る日が多くなり秋の深まりを感じていたが、その徴であるホトトギス、茶の木の花が咲き始めている。

\*秋の七草の一つで、絶滅危惧種に指定されているフジバカマ(藤袴)がきれいに咲いている姿を、最近祖師谷公園で見つけた。No.27の画像を差し替えさせて頂いた。

[http://sengawacx.com/LookNatureNo29\\_2020.jpg](http://sengawacx.com/LookNatureNo29_2020.jpg)